

## CONTENTS

特集  
Special Features

## 地域サービスの高度化に向けて — SOA 活用でサービスを連携・統合 —

### Toward the Realization of High Value-added Regional Services : Coupling and Combining Various Kinds of Services Utilizing Service-oriented Architecture Concept

- 427** 編集にあたって 宮本大輔・安信千津子  
Foreword Daisuke MIYAMOTO (Hitachi, Ltd.) and Chizuko YASUNOBU (Hitachi Consulting Co., Ltd.)
- 429** 1. 公共サービスのあるべき姿とその実現に向けた取り組み 公共情報インフラの設計と実践 酒井雅之  
Initiatives for Next-generation Public Services on ICT Social Design Practice with Harmonizing Institution and ICT Masayuki SAKAI (Ministry of Internal Affairs and Communications)
- 436** 2. 複数サービスの連携システム開発における SOA デザインパターン技術 高橋規生・里 佳史・牛山克彦  
Applying SOA Design Patterns in Development of Service Interaction Platform Technologies Norio TAKAHASHI, Yoshifumi SATO (Hitachi, Ltd.) and Katsuhiko USHIYAMA (Duo Systems Co., Ltd.)
- 448** 3. サイトを越えるサービス連携における認証・認可, プライバシ情報保護技術 齊藤嗣治・石井章夫  
Authentication, Authorization, Privacy Information Management Technology in Cross-Site Web Service Federation Tsuguharu SAITO (NEC Corp.) and Akio ISHII (Fujitsu Ltd.)
- 457** 4. サービス利用者のニーズを加味したサービス情報(サービス運用条件等)の管理制御技術  
島谷 明・奥平 禎・田原聡士  
Management and Control of Service Information Akira SHIMAYA, Tadashi OKUDAIRA and Satoshi TAHARA (NTT Communications Corp.)
- 463** 5. 複数組織がかかわるビジネスプロセスを改善するためのモニタリング技術  
菊地伸治・神南吉宏・屋代 聡・金井 剛・加藤光幾  
Monitoring Technologies for Improving Business Processes among Multiple Organizations Shinji KIKUCHI, Yoshihiro KANNA (NEC Corp.), Satoshi YASHIRO (Hitachi, Ltd.), Tsuyoshi KANAI and Koki KATO (Fujitsu Ltd.)

小特集  
Special Features

## IT フォーラムへの誘い

### Introduction to the IT Forum : A New Community Initiative for the IT Professionals

- 473** 1. IT フォーラムへの誘い 青山幹雄・松井くにお・徳田英幸  
Introduction to the IT Forum : A New Community Initiative for the IT Professionals Mikio AOYAMA (Nanzan Univ.), Kunio MATSUI (Fujitsu Labs. Ltd.) and Hideyuki TOKUDA (Keio Univ.)
- 475** 2. サービスサイエンスフォーラムへの誘い—顧客満足向上と生産性向上のバランスを目指す 諏訪良武  
Invitation to Service Science Forum Yoshitake SUWA (WAKU Consulting Corp.)
- 478** 3. IT アーキテクト /CIO フォーラム 榊原 彰  
The Responsibility of the IT Architect Akira SAKAKIBARA (IBM Japan, Ltd.)

- 481** 4. ユーザスタディフォーラムー人間中心イノベーションをイノベートする 田村 大・野村早恵子  
User-study Forum : Innovating Human-centric Innovation Hiroshi TAMURA (Hakuhodo Inc.) and Saeko NOMURA (Univ. of California)
- 484** 5. イノベティブ社会基盤フォーラムの取り組みーイノベーションが育まれる環境の解析に向けて  
神成淳司・許斐俊充・小野和俊  
A Report from Innovative Social Infrastructure Forum - Analyzing the Environment Where Innovation Proliferates Atsushi SHINJO (Keio Univ.), Kazutoshi ONO (Appresso K. K.) and Toshimitsu KONOMI (National Instruments Japan)
- 487** 6. Web 2.0 フォーラムーインターネットの真のパラダイムシフト 栗原 潔  
Web 2.0 - A True Paradaim Shift in The Net Kiyoshi KURIHARA (TechVisor. JP, Ltd.)
- 489** 7. 福祉情報システムフォーラムーユニバーサルデザインの協創に向けて 萩川友宏  
An Introduction of Welfare Information System Forum Tomohiro HARAOKAWA (Shizuoka Univ.)
- 493** 8. IT ダイバーシティフォーラム 安信千津子・青山幹雄  
IT Diversity Forum Chizuko YASUNOBU (Hitachi Consulting Co., Ltd.) and Mikio AOYAMA (Nanzan Univ.)
- 496** 9. 高度 IT 人材育成フォーラム 掛下哲郎・箕 捷彦・牛島和夫  
IT Professional Development Forum Tetsuro KAKESHITA (Saga Univ.), Katsuhiko KAKEHI (Waseda Univ.) and Kazuo USHIJIMA (Kyushu Sangyo Univ.)
- 499** 10. イノベーションを生み出す鍵がここにあるーソフトウェアジャパン 2007 からのメッセージ  
青山幹雄・松井くにお  
Key to Innovation : Messages from Software Japan 2007 Mikio AOYAMA (Nanzan Univ.) and Kunio MATSUI (Fujitsu Labs. Ltd.)

## 解説 Articles

- 502** 小中学生を対象としたロボット競技会と総合理科教育 山下博之  
A Robot Contest for Children and Comprehensive Science Education Hiroyuki YAMASHITA (Japan Science and Technology Agency / NTT Data Corp.)

## 連載 Series

- 512** これからの情報処理学会 情報処理技術者の地位の向上を目指して 旭 寛治  
Thoughts about the Future IPSJ : Aiming to Raise the Status of IT Engineers Hiroharu ASAHII (Hitachi Technical Communications Co., Ltd.)
- 518** これからの情報処理学会 通信する情報と処理する情報 中島秀之  
Thoughts about the Future IPSJ : Information Communicated and Information Processed Hideyuki NAKASHIMA (Future Univ. -Hakodate)
- 521** 「情報学を創る」ー科研プロジェクトがめざしたもの ICT は科学の発展に役立つのか?  
ー情報学 A05 班の挑戦ー 下條真司・野崎一徳・松岡 聡  
Creating Informatics - What the KAKEN Project is Aiming at : How Does ICT Affect on Progress of Science ? Shinji SHIMOJO, Kazunori NOZAKI (Osaka Univ.) and Satoshi MATSUOKA (Tokyo Institute of Technology)

## コラム Columns

- 527** 標準化よもやま話 規格とスクーバダイビング 柴田 彰  
Small Talk on Standardization : Standards Relating to SCUBA Diving Akira SHIBATA (Denso Wave Incorp.)
- 528** 研究会千夜一夜 表現力の向上を目指してーグラフィクスと CAD 研究会ー  
西田友是・齋藤 豪・柿本正憲・乃万 司  
1001 SIG Nights : Toward Expressive Rendering - Special Interest Group for CG - Tomoyuki NISHITA (The Univ. of Tokyo), Suguru SAITO (Tokyo Institute of Technology), Masanori KAKIMOTO (SGI Japan, Ltd.) and Tsukasa NOMA (Kyushu Institute of Technology)
- 530** 研究会千夜一夜 IS 研究会の 100 回記念研究発表会を迎えるにあたり 市川照久  
1001 SIG Nights : In Commemoration of the IS Society of the 100th Times Teruhisa ICHIKAWA (Shizuoka Univ.)

## 書評 Book Review

- 532** 明文術 伝わる日本語の書きかた 阿部圭一 著, NTT 出版 (株)

## その他

- |                       |                            |
|-----------------------|----------------------------|
| <b>534</b> 会員の広場      | <b>543</b> アンケート用紙         |
| <b>536</b> IPSJ カレンダー | <b>544</b> 編集室 / 次号予定目次    |
| <b>538</b> 人材募集       | <b>545</b> 掲載広告カタログ・資料請求用紙 |
| <b>542</b> おふいすらん     | <b>546</b> 賛助会員のご紹介        |





住所が変わったり勤め先が変わったりすると、いろいろな届けなどで忙殺されることがよくある。保険や年金、学会、出版社、などなどすべてに変更の届けを出さなければならない。大抵はいくつか(大半?)を忘れ、あとで騒いで処理することになる。これを一度で済ませられたらいいのにと思ったりする。この問題に答えようとするのが今月号の特集「地域サービスの高度化に向けて—SOA活用でサービスを連携・統合—」。宮本大輔、安信千津子がエディタ。種々の地域サービスを実現しているシステムの連携を図るのが目的。施策面では、総務省がらみの取り組みを、技術面では複数サービスの連携のための仕組み、たとえばサービス間の認証・認可の共有方式などについて解説している。(独)情報通信研究機構からの委託研究の成果の一部。技術的には、本誌で連載中の「グリッドとSOAからみるWebサービス標準技術」が応用されるらしい。しかし、さまざまな側面からの要求仕様が語られるが、全体としての辻褃あわせ、特にセキュリティの確保が大いに気になるところである。

小特集「ITフォーラムへの誘い」は石田亨、青山幹雄がエディタ。本学会の技術応用運営委員会からのアウトプット。実務家を中心とする新しい活動の場、として設定されたという。現在のフォーラムであるサービスサイエンス、ITアーキテクト/CIO、ユーザスタディ、イノベティブ社会基盤、Web 2.0、福祉情報システム、ITダイバーシティ、高度IT人材育成、などに触れた後、全体シンポジウムであるソフトウェアジャパンの様子を紹介。

「小中学生を対象としたロボット競技会と総合理科教育」(山下博之)はFIRST LEGO League という「総合的教育プログラム」についての、参加経験も交えた紹介。設定されたトピックについてのリサーチとロボット競技会を組み合わせた大会らしい。「大学生や社会人は“場”を与えれば自ら学習するが、小中学生には“気づきの促し”が必要」という段はどれくらい正しいであろうか。

「ICTは科学の発展に役立つのか?—情報学A05班の挑戦—」(下條真司、野崎一徳、松岡聡)は“情報学を創る—科研プロジェクトがめざしたもの”のシリーズ。哲学的な匂いのする題名ではあるが、中身はグリッドコンピューティングをめぐる話。

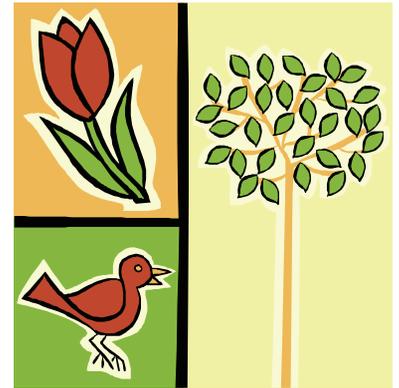
「情報処理技術者の地位の向上を目指して」(旭寛治)と「通信する情報と処理する情報」(中島秀之)は“これからの情報処理学会”のシリーズ。“地位の向上”では、ACMが「情報へのプロフェッショナルエンジニア制度の導入」に否定的であるという話が興味深い。その理由には解せないものも多いのだが、“通信する”では「通信」の性格を検討したりしているが、情報の「処理」についての迫り方が今一歩か。

「表現力の向上を目指して—グラフィクスとCAD研究会—」(西田友是、齋藤豪、柿本正憲、乃万司)は“研究会千夜一夜”のシリーズ。分野動向の紹介とゴム製カエルの(ような)例。

「IS研究会の100回記念研究発表会を迎えるにあたり」(市川照久)も同じシリーズ。同研究会の歴史紹介。論文になりにくいばかりでなく、研究例も紹介しにくい風情。

「規格とスクーバダイビング」(柴田彰)は“標準化よもやま話”のシリーズ。プールの水中照明の危険性や、規格外れのシュノーケルの危険性などを例として、社会生活における安全性と規格との関係を分かりやすく述べている。

「書評:明文術 伝わる日本語の書きかた(阿部圭一)」(前田英作)も寄せられている。(Skay)



## 会誌編集委員会

編集長

川合 慧

担当理事

石田 亨

長谷川 亨

本号エディタ

青山 幹雄

安達 淳

片山 博

兼宗 進

木戸 彰夫

久門 耕一

胡 振江

佐伯 元司

白木 善尚

田中 哲朗

土井美和子

前田 英作

間瀬 久雄

宮本 大輔

安信千津子

山下 博之

山本里枝子

編集スタッフ

後路 啓子

町田 善江

綿谷 亜樹